

## 「事前の研究室訪問をお勧めします」

### ◆当研究室の特徴

- ・大学研究推進機構所属で、工学部応用化学科の協力講座です
- ・企業経験豊富な教職員や社会人ドクターがいます  
(企業時代は、毎年新入社員が配属され、インターンシップ受入部署の責任者もやっていました)

### ◆卒論テーマの特徴

ポスト LIB として様々な電池が研究されているものの、未だ LIB を凌駕するような電池はありません。その間にも LIB の技術進化は続いており、当研究室が提唱した機能性電解液は、LIB の中核技術の一つとなり、世界中の LIB で使われています。現在も、新たな電解液の実用化を目指して日々研究しており、自分の研究がひょっとしたら数年後、商品化している・・・かもしれません。

### ◆卒業研究を通じて学ぶこと

学部の総決算となる卒業研究は、3年生までの学生実験とは全く異なり、「まだ答えが分からない課題」に挑む「研究の初歩」を学びます。学生実験は「上手くいくのが当たり前」でしたが、卒業研究からは「上手くいかどうか分からないのが当たり前」になります。「先に答えを教えてください」とか、「文献を調べたら誰もやっていなかったのだから心細いです」と言う人もいますが、そもそも最初から答えが分かっているテーマをやる研究者はいません。

皆さんは、小学校から大学 3 年に至る長い間、「**答えがある問題を時間内に正確に解く**」ことを競ってきました。しかし、卒業研究からは図書館に行って自分で色々調べたりして、「未知の課題を明らかにする学び」に変わるので、3 年までの学業成績が多少悪くても「研究適性がある」という人もチラホラ見かけます。「思い込み」が強過ぎたり、「指示待ち」から抜け出せず、いつのまにか逃げ出してしまう人。1 月の直前期になって徹夜すればいいと思っている人もいますが、企業の採用面接では、教授から与えられた研究テーマを自分なりに咀嚼して、研究の方向を軌道修正しながら挑んだ学生の「調べながらやり抜く力」が見られています。

社会に出れば、「**答えのない課題を自分で見つけ、それを解き明かす**」ことの連続です。「どこの大学出身か？」より「何が出来るか？」の方がよっぽど重要になります。そこで初めて、出身大学が安泰な一生を保証してくれる訳ではないことに気づきます。日進月歩の研究に触れる卒業研究を通じて、「知識のアップデート」や「技能のブラッシュアップ」を日々重ねながら、社会に出ると必要不可欠な「論理的思考力」とその「表現力」と共に「協働性」「コミュニケーション力」を身に付けた頃には、晴れて社会人になっていることでしょう。

- ・カーボンニュートラル実現のカギとなるリチウムイオン電池の研究に興味がある人
  - ・最後の 1 年は、人とはちよつと違った環境に自分を置いてみたい人
  - ・インターンシップのような企業雰囲気を感じてみたい人
- 歓迎します！

以上